

宮城大学 後援会報

Vol.58

発行
令和4年2月28日

発行者
〒981-3298
宮城県黒川郡大和町学苑1-1
宮城大学後援会
TEL022(377)8381
編集
宮城大学後援会事務局



そんな時、心を揺さぶる言葉を与えてくれる

有森裕子さんといえば、オリンピックメダリストでありマラソン界において数々の記録を打ち立てた世界的にも有名なランナーです。残念ながら、若い世代はそんな偉大な方を存じ上げないらしく、それには少し驚きました。

この講演会は一昨年コロナ禍で延期になり、有森さんのご厚意から翌年に持ち越しての二年越しでの開催になりました。有難い話です。わたしは聞くべくしての参加だったのかもしれない。これは運命だったのかもしれないとも思いました。

奇しくも股関節脱臼でお生まれになり、有森さんが苦難のスタートだったとは思ってもありませんでした。成長が止まるまで身体的に制限された生活を送るうち、子どもだから気持ちも腐る。それゆえネガティブな感情で日々を過ごし、何の楽しみも目標も自信もなく過ごした小学校時代だったと聞きました。

彼女が、心の持ち方と、あきらめないことと、継続することを忘れてはならないとおっしゃっていました。この三つは誰でも

有森さんの「粘り」は人をも説得したり、味方につけてしまったりと、人生を大きく変えていくとんでもない武器でした。もちろん並々ならぬ努力も併せ持っていたらしやいました。

それ以来、ここぞという時々で自ら掲げた目標と自分の武器となる粘り、すなわち「あきらめない心」をもって取り組んできたそうです。その道を不器用な性格のため相当、紆余曲折しながら進んでいったそうです。



有森さんには、坪沼農場で収穫した新米、醸造に興味のある有志の学生が醸し上げた日本酒「大学生の純米大吟醸」、学生が参加したプロジェクトで出来上がった「秋保クラフトシードル」を贈りました。(坪沼農場は4面でご紹介しています)



控室では、宮城県の定番お菓子「秋の月」と仙台愛子のYou&gのパウンドケーキ(卒業生のショップ)でおもてなし。

写真撮影のためマスクを外しています。

有森さんは、人間であるからこそ出来る、人間だから工夫する、人間だから心持ちで変化を生むのだと気づかせてくれました。人生まだまだこれからと今からでも、自分が求めればなりたいたい形にしていけることも可能なのだと、この後気を奮い立たせてくださいました。偉業を成しえた方の言うことにはすごい説得力があります。聞き終わると自分自身を鼓舞され、やる気パワーをお裾分けしてもらった気分でした。

この講話で会場の皆さんを元気にする時間にしたとおっしゃっていました。有言実行、帰路に向かう参加者の皆さんも足取りがわたしには心なしか軽やかに見えたのでした。

あるはず。尻込みしないでちょっとだけ思考を変えてみたり、行動してみたり、勇気を出してみたりなどすればいい。若い世代にも共通して言えると思います。しかしながら、年を重ねるごとに自然とそれが出来なくなっていくものですよ。わかっているけれども出来なくなる。8割プラス思考に持っていけば必ずと結果は変わるという言葉は印象的でした。

主催事業 有森裕子氏講演会

夢はかなう あきらめない心をもって

後援会理事 田口 恵

記事一覧

2面 ● MYUサポーターズデー(動画配信)の報告／キャリア開発事業支援の報告
3面 ● 基盤教育の学び

4面 ● 学びの場 坪沼農場
5面 ● 学祭大和／学祭太白実行委員からの報告
6面 ● サークル活動の紹介

7面 ● コラム／絆
8面 ● 後援会からのお知らせ／教員からの一言／大学からのお知らせ／お問い合わせ先

主催事業 MYUサポーターズデー

学群ごとの動画配信により、大学や学群の状況をお知らせ

令和3年度もオンラインでのMYUサポーターズデーとなりました。

新型コロナウイルス感染症が広まった令和2年度は、大学構内への立入りが制限され、授業は遠隔授業となり、感染防止対策として講義室のレイアウト変更、検温・手指消毒用品やアクリル板の設置のほか、学内のルールづくりなど、さまざまな課題を解決しながら対面授業の再開に向けて準備が行われた前期でした。



▲関会長のあいさつ



▲川上学長のあいさつ

対面と遠隔によるハイブリッド方式の授業となった後期には、後援会主催事業「MYUサポーターズデー」at home「」を開催し、大学の感染防止対策や授業の状況などを学長はじめ大学教職員のご協力を

いただきながらライブ配信しました。

令和3年度は、例年どおり大学キャンパス内にお招きし、キャンパスツアーや学長・学群教員との交流企画を準備していましたが、8月下旬から9月初旬にかけて、再び新型コロナウイルス感染者数が全国的に増加し、宮城県にも緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出自粛が要請されたことから熟慮の結果、サポーターズデーは中止としました。キャンパスにお越しいただいていたの対面によるサポーターズデーは開催できませんでしたが、学長はじめ学群教員にご協力いただきサポーターズデーのプログラムを動画撮影し、9月下旬から配信して、参加予定だった方々にご覧いただきました。

先生方の説明は「会員の皆様にあずことなく説明したい」というお気持ちから、持ち時間をオーバーするなど、少し長めの動画となっています。会員の皆様には是非ご覧いただきたいと思っておりますので、右のメールアドレスへお申込みください。

い。限定公開のURLをお知らせいたします。

対面によるサポーターズデーは、勉学に励む学生のサポーターである父母・保証人が日ごろから気にかけている修学状況や学生生活、就職活動へのフォロー状況をのほか、学群によっては模擬講義などを聴くことができます。子女が大学生になったものの、父母・保証人としては不安があるもの。その不安を安心に変えることができる場を提供したいと考えています。また、子女が学んでいる講義室やキャンパス環境も肌に触れていただく機会でもあると考えています。

令和4年度はキャンパスにお招きしたいと考えておりますので、案内が届きましたら是非お申込みください。



▲大学の感染症対策、授業、学生生活について武田副学長が説明されています。



▲就職状況と今後のキャリア形成について説明する田邊キャリア・インターンシップセンター長



▲看護学群からは4年間の教育課程、キャリア開発支援や学生ワーキンググループの学生支援について齊藤教授、竹本准教授、三上准教授が説明されました。



▲事業構想学とは何か、学び・研究のことについて、そして2011→2021 DECADEのチャレンジについて中田学群長が講義形式で説明されました。



▲食産業学群の学生達の4年間の学び、進路支援などについて、井上教授と須田教授が説明されました。

キャリア開発事業支援についてのご報告

12月8日(水)にキャリア教育の一環として事業構想学群・食産業学群の全学生を対象とした合同業界研究セミナーを実施しました。

このセミナーは、企業・団体の人事担当者や本学OB・OGの皆様から、業界や企業の説明をしていただき、学生の職業観や勤労観を涵養し、個々人の個性や適性に応じた職業を学生が自ら選択できる能力を育成することや学修意欲を高める目的で、幅広い業界研究の機会として実施しております。今年度も昨年に続きZoomを用いたライブオンラインでの実施となりましたが、宮城県内外から73者の様々な業界の企業・団体に参加していただきました。両学群の3年生を中心に延べ740名が参加し、学生が自らの疑問を質問し、業界への理解を深める姿も見られました。

この他にも、後援会のご支援を受けた、国家試験対策(看護学群生)、エントリーシート添削(事業構想学群生)、自己分析・適職発見プログラム(食産業学群生)も実施しております。皆様方の引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(企画・入試課 企画・広報グループ)



明日の姿を見通す力を身につけ、 自分の未来を切り開くための 知的基盤を養う基盤教育

大規模な自然災害や世界的な疫病の流行、ビッグデータやAIを駆使した社会イノベーションなど、私たちが巻き巻く世界は、これまでより変動的で、不確実で、複雑で、曖昧な世界になりつつあるようです。私たち一人ひとりが人生を豊かにし、かつ社会全体がより良い方向に向かうためには、各自が将来にわたって「明日の姿を見通す力」を身につけ、自分の未来を切り開いていくことが大切になります。

を深めながら実践力を養う「実践知」、これら三つの知の基礎を身につけ、それぞれの学群専門領域での学びや卒業後の社会人としての素養を深めます。

また、宮城大学の基盤教育には三つの役割があります。全学必修のフレッシュマンコア科目群に代表される、宮城大学生としての学びを始めるにあたって身につけるべき知識や技術を学ぶ「導入教育」、豊かな人生を送るため人類の「知」を俯瞰し自ら学びを深める力を身につける「教養教育」、宮城大学の三つの学群の特徴を活かし連携しながら教育を提供する「共通教育」です。

「導入教育」では語学や情報科学、統計学、調査研究方法等の基礎を学ぶとともに、地域フィールドワークや基礎ゼミなどの実践的な演習も行う

〈女川町〉



〈亶理町〉



います。「教養教育」として、芸術・人文科学、人間科学、社会科学、グローバルコミュニケーション、自然科学などの科目群があり、これまで人類が蓄積してきた「知」を俯瞰し、掘り下げていく科目が開講されています。また「共通教育」としてはグローバルな人材育成をめざすコミュニケーションプランナー育成プログラムのような地域連携型実践教育が提供されています。

令和4年度からはカリキュラムが改編され、新しい基盤教育科目がスタートします。フレッシュマンコア科目の充実を進め、数理・データサイエンス・AI教育の強化、学群専門科目との接続性の強化、国際感覚を養う科目の新設など、本学の特徴を活かした基盤教育の実現を目指しています。

基盤教育群長 平岡善浩

〈大崎市鹿島台〉



地域フィールドワーク

フレッシュマンコア科目の一つで全学必修科目です。地域社会について座学を中心に学びつつ、グループ単位のフィールドワークで地域課題の発見とその解決に取り組みます。地域に関する知識やフィールドワーク手法の習得だけでなく、地域社会の将来に対する学生の使命感を涵養し、主体的な学びへと促すことも目的の一つです。

写真は2021年度に開催した地域フィールドワークのひとコマです。

坪沼農場

太白キャンパスから
8 km離れた農場



▲坪沼農場

宮城大学食産業学群附属農場には、太白キャンパスにある「旗立農場」と太白キャンパスから車で20分ほどの坪沼地区にある「坪沼農場」の二つの農場があります。

坪沼農場では、食資源開発学類およびフードマネジメント学類2年生の必修専門基礎科目『食材生産・加工実習Ⅰ』を中心に、田植えや稲刈りなどの水稲栽培、野菜の栽培管理および牛の種付けなどの教育実習の場となっております。

また、坪沼農場では、食品安全・労働環境・環境保全に配慮した農業生産工程管理（GAP）の国際的な基準であるグローバルGAPについて、2018年度にハウス栽培の『ネギ』で認証取得し、毎年認証更新をしております。お陰様で無事2021年度も認証更新したところです。

皆さんがよく知っているマクドナルドで販売されるハンバーガーには、グローバルGAPの認証を得たレタスが使われています。グローバルGAP認証を得るためには、播種から収穫・出荷までの工程のリスクだけでなく、農場全体のリスク、食品安全面からのリスク、生物多様性のリスクなど、数多くのリスク評価を行い、200以上の審査項目をクリアしなければなりません。毎年更新し続けるためには、常時そのマネジメントシステムをキチンと回すことが必要となります。

これまでのグローバルGAPの活動

で培った運用やリスク評価を認証品目以外のお米や野菜等における生産活動に展開することで、より安全・安心なお米や野菜を提供することができるようになります。さらにこのマネジメントシステムを他のカリキュラムにも展開し、世界で求められている安全・安心な農産物の生産に関する教育が受けられるよう取り組んでいます。

坪沼農場で生産される野菜は20品目近くあり、太白キャンパス学生生協において毎週2回販売されており、学生の方だけでなく近隣の方々からも購入頂き、安全・安心で新鮮な野菜として高い評価を得ています。

今年度は、ジャガイモと長ネギを大和キャンパスでも予約販売するなどし、大和キャンパスの皆さんにも坪沼農場産の野菜を知って頂くことができました。坪沼農場産のお米（ひとめぼれ1等米）は、太白事務室にお電話頂くことで大和キャンパスの皆さんや一般の方にも販売しております。よろしければ是非購入して頂ければ幸いです。

来年度からは、新カリキュラムが始まり新1年生の実習の場として坪沼農場の利用も計画されております。

これからも教育実習の場、生産物を用いた地域とのつながりの場として坪沼農場での活動を応援頂けますよう宜しくお願い致します。

宮城大学食産業学群附属農場長
食産業学教授 中村聡



▲乳牛、肉牛も実習に協力しています



▲グローバルGAP認証の「ネギ」



▲美味しい一等米の「ひとめぼれ」

2021年、「MYU FES' 21 ~A Whole MYU World~」、対面ではなくオンラインでの開催となりましたが、いかがでしたでしょうか。2020年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となり、今年こそはという気持ちで挑んだ2021年。残念ながら2021年も新型コロナウイルスは猛威を振るい、対面ではなく、初のオンラインでの開催となりました。

前例の無いオンライン開催。正直、実行委員会内では、どんな形になるのか、皆さんに楽しんでもいただけるのか、どのように感染症対策を講じて行うのか、などといった様々な不安が募っていました。しかし、その一つ一つの不安を、実行委員のみんなで解消し、着々とオンライン開催の全体像を描いていくことができました。実行委員のみなさん、本当にありがとうございました。そして、我々の活動のために様々な協力をしていただいた皆様に、この場を借りて、感謝申し上げます。

これまでの大学祭では、例年行っていた露店での飲食物の販売や、縁日・お化け屋敷などの出店、大学構内全体を使ったスタンプリーなど、“現地”でしか楽しめないコンテンツを用意してき

ました。今回、オンラインでの開催ということで、それらの実施はできませんでしたが、これを読んでいただいている皆さんにはいつか、キャンパスでの大学祭の雰囲気や、学生とのコミュニケーションなどを、“リアル”で楽しんで欲しいと思っています。2022年以降、どのような形で大学祭になるか、まだ見通しが立っていませんが、もし対面での実施ができるようになった日には、大学祭をより一層、皆さんにサポートいただければと思います。よろしくお願いいたします。

改めて、今年は初のオンライン開催ということもあり、不慣れな点や、ご迷惑をお掛けした点などあったと思いますが、無事に開催できたのは、協賛企業の皆様、実行委員会のみんな、大学事務局、後援会の皆様、LECの皆様、そして画面の向こう側から応援していただいた皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

MYU FES'21
~A Whole MYU World~パンフレット

MYU FES' 21 ~A Whole MYU World~のフラッグと実行委員のみんな



多くの協賛をいただき開催することができました。実行委員幹部



モルカー 74



チャムベ



舞台袖で音全般のサポートを行うLECのメンバー



感染防止策を徹底して実施しました。

太白キャンパス大学祭 中止を決めた2021年

太白キャンパス大学祭実行委員長
食産業学群フードマネジメント学類 3年 今城 照英

今回の大学祭は新型コロナウイルスの蔓延により、例年通りの計画で行えず遅れ気味になり、計画を立てるのにとっても苦労しました。

対面での活動が難しいため、SNSを活用しメンバーを集め、幹部との話し合いを重ねることで、企画案や装飾案、模擬店の出店、予算案、広報活動の具体案などが見え、開催日時を決めることができました。

しかし、新型コロナウイルスが再び蔓延し、まん延防止等重点措置が発出され、対面で準備を行うことができず、予定日での開催が不可能になりました。そこで、幹部で再び話し合い、延期を決定しましたが、再び感染者数が急増し希望通りの学祭を行うことが難しくなりました。代案として、オンラインでの開催や出店数の削減、企画の削減など考えましたが、このように「規模を縮小してしまうと、盛り上がる学祭らしさが無くなってしまい中途半

端になるなら中止にした方がいい」という意見になりました。

そこで、学生であるメンバーにも意見を聞いてみましたが、4割ものメンバーが中止に賛成でした。このようなことや、準備期間の短さ、見通しがつかない不安などから苦渋の決断により中止という判断にしました。

2年間大学祭を開催することができなかったため、次の大学祭は3年間分の思いを込め素晴らしい大学祭になることを期待しています。

太白事務室学生支援担当者のコメント

2年連続で大学祭が開催できなかったことの決断に際しては断腸の思いであったと思います。今城さんをはじめ実行委員(メンバー)の皆さんは、太白キャンパスの学生の想いを背負って大学当局との調整を誠実にしてくれました。精緻に策定したリスクマネジメントプログラムに基づき自分たちが思い描く大学祭の実施は不可能と冷静かつ客観的に判断し速やかに大学及び全学生に報告したことについて高く評価されるべきものと思います。

サークル活動

太白 あなたのなぜ？をみんなで考えよう！

宇宙・地球生命研究部“Polaris”代表
食産業学群フードマネジメント学類2年 増井 愛未

私たち宇宙・地球生命研究部“Polaris”は、2021年7月から活動を始めました。宇宙と生命について強く関心があったため、このサークルを結成することに決めました。天文台や動物園、水族館を訪ね、楽しく学びながら知識を深めるとともに、実際に天体観測を行うことをメインに活動していきたいと考えています。初期メンバーの6人から現在では25人まで増え、このサークルも少しずつ大きくなってきました。

これまでに、天体観測と天文台へ訪問しました。これらの活動の様子について簡単に紹介します。



月食 神秘的な色を輝かせる月

まずは、天体観測についてです。11月12日におうし座北流星群を、19日に部分月食の観測を行いました。おうし座北流星群は、流星数が少ないためあまり流れ星を観測することができませんでしたが、運が良いメンバー

は火球と呼ばれる明るい流星を見ることができました。また2021年の部分月食は、皆既月食に近い形で観測できました。時間とともに月の色に変化していく様はとても神秘的でした。

次に、天文台についてです。仙台市天文台を訪れ、プラネタリウム鑑賞と展示室見学を行いました。プラネタリウムでは「今夜の星空散歩」というタイトルのもと、星空を映しながら、星座にまつわるエピソードや星の観測の仕方など、今後の天体観測

に活かしていきたいお話をたくさん聴きました。

展示室では、宇宙の歴史や星の成り立ちなどを知れる非常に興味深い展示物がたくさんありまし



天文台 星・宇宙が楽しく学べました

た。実際に手を使って体験できるようなものも多く、メンバー一同「星」について楽しく学ぶことができました。

12月には、後援会からの助成のおかげで天体望遠鏡が私たちのサークルの仲間に加われました。これからの天体観測がより一層楽しくなりそうです。

今回までの活動では、宇宙と生命のうち「宇宙」の分野がメインであったため、今後は「生命」についての学びも深めていきたいと考えています。春休みには動物園や水族館などを訪ねたいです。

宇宙と生命には様々な「ふしぎ」と「おもしろさ」が秘められています。活動を通して、これらにふれながら多くのことを学んでいきたいと考えています。



天体望遠鏡 活動の楽しみが増えます

大和 コロナ禍での課外活動

宮城大学ソフトテニス部 代表
事業構想学群 事業プランニング学類3年 三津木 雄大

私たち宮城大学ソフトテニス部が創部して3年目、組織として力をつけ始めた勢いのある時期に新型コロナウイルスが猛威を振るったことは大学生活における最大の苦難といっても過言ではない。

3年前、宮城大学の課外活動として部活動は存在していなかった。しかしながら、高校時代に県内で活躍をしていたプレイヤーが偶然にも多く在籍していたことに気づき、私たちは部を創設した。組織としての継続性を求めたのではなく、4年間のうちに結果を出す自信があったからこそサークルではなく部を創設し



2019年5月の東北地区2部リーグ昇格のとき

東北地区の学生連合に加入したのだ。思惑通り、初年度にして東北地区リーグ2部への昇格を果たし、1部リーグ昇格への目標を掲げた矢先、この2年間は新型コロナウイルスにより大幅に活動が制限され、苦難を強いられることとなった。

特に今年(2021年)、平日は活動できず、活動可能な時間は休日の2時間。出場できた大会は6月に開催された宮城県選手権のみ、学生連合主催大会には出場することさえもできなかった。活動制限が延長され、一つ一つの大会日程が過ぎ去っていくことがつらく、4年生にとっては今年が最後のチャンスであることもあり、私たち個人の焦りを募らせた。4年生と大学入学以後1度も対外試合に出場できていない2年生の思いも感じていたが、大学事務局に何度か活動緩和の交渉に赴くことしかできず無力さを感じさせられる一年であった。大学事務局の担当の方々にお手間をおかけしてしまったことをお詫び申し上げるとともに制限緩和に尽力していただいたことに感謝申し上げたい。

未だ全国的には感染症蔓延に油断を許さない現在、私たちが出来ることは何か。4年生の卒業により戦力低下を避けられない来年度に2年越しの目標を果たすために出来ることは何か。変化の激しい社会の流れに対して広い視野を持ち、置かれる環境に柔軟に対応できるよう食らいついていくことが目標に近づく一歩となると信じ、来年度の活動に備えたいと思う。

宮城大学での水産研究(下)

山の上のタコ

山の上でのタコ養殖の挑戦について紹介する。宮城大学では、タコの完全養殖を目指し、西川食産業学群長が中心となり、企業や多くの大学と研究が進められてきた。2017年度より私もチームに加わり、山の上でのタコ養殖の挑戦が始まった。

タコ類の国内漁獲量は減少し続けている。スーパーなどではモリタニア産やモロッコ産などが並ぶようになり、国外のタコ資源への依存が高い状況にある。このような状況の中、世界的な和食ブームにより国外のタコの需要が高くなり価格が高騰するとともに、世界的にタコ資源が減少していった。タコ資源の持続的利用のため、マダコの養殖技術の開発が課題となり、日本だけでなく、スペインなどでも多くの研究がなされてきた。しかし、マダコ完全養殖には、多くの課題が残され、安定生産にはまだまだ遠い。

マダコの養殖が難しいのは、生まれてから親と同じような生活スタイルになるまでに、大きな変化がある点にある。卵から生まれたマダコは約1カ月間の浮遊生活を過ごす。その後、蛸壺に入るような底生生活になる。この浮遊生活の時期の安定した給餌が難しいのである。この課題を解決するため、宮城大学でも様々な餌を試している。現在は活き餌(カニの幼生)のみで成功例があるが、安定生産の

食産業学群助教 片山 亜優

ため人工餌の開発に挑む。

本学の水産実験棟では春から秋にかけて、親ダコから卵を産ませ、飼育試験を実施している。山の上であるため、海水交換を最小限にした閉鎖循環によるタコの陸上養殖の成功を目指している。現在は、親ダコから卵を産ませ、孵化させる技術、また底生生活に入ったタコの人工餌料の開発を成功させている。春から夏にかけて、山の上でタコの赤ちゃんを見ることが可能である。皆様のご協力もあり、水産実験棟の施設が充実してきている。今後は魚類も含めて様々な研究が可能である。



太白キャンパス(仙台市太白区旗立)の水産実験棟
左側の赤く囲ったところがタコの赤ちゃんの住処。
青い丸の水槽ではカニが飼育されている。



生後23日目のタコ



タコの赤ちゃんがカニの幼生を捕食

かたやま 片山 亜優

東北大学大学院農学研究科博士後期課程修了。博士(農学)。専門は水産増殖学。
2017年より現職。

絆

No.27

多くの人に支えられた充実の四年間

食産業学群食資源開発学類4年 佐藤 夏海

在校生、卒業生、教職員など、さまざまな立場で宮城大学に関わっている方から寄せられた思いでつなぐ「絆」。今回は、食産業学群4年の佐藤夏海さんです。つらいこともあったようですが、学内外で活躍された大学生活の4年間を振り返っていただきました。

気づけばもう卒業、私はこの4年間で非常に多くの経験をさせてもらった。大学のプログラムであるリアル・オーストラリアに参加しホームステイを体験したり、東アジアサマースクールに参加し留学生の方々と日本の歴史や文化について議論したり、大学祭の広報長としてパンフレットの作成やお笑いライブの企画も行った。また、地域フィールドワークでの動画作成、みやぎ食の応援団でのシールドプロジェクトの遂行、日本応用藻類学会での口頭発表、学外では一人海外旅行に行ったり、演者としてミュージカルに出演したりした。忙しくも充実した、楽しい学生生活だったと思う。

していきたい。

この4年間で決断力や行動力、そして沢山の経験を得ることが出来た。これも恵まれた環境で多くの人に支えていただいたからだ。この場を借りて感謝の気持ちを伝えたい。いつも支えてくれた家族、共に悩み助け合った友達、陰ながら支え真摯に向き合ってくれた先生と大学に関わる多くの方々、活動を応援し様々な視点の意見を教えてくれた地域の皆様、活動に協力してくれた企業様、ありがとうございました。

私は4月から関東で働く。今までは周りに支えられてばかりだったが、これから誰かを支える側になりたい。そして、何年後にはな

るかは分からないが、いつか私を成長させてくれた宮城に、その発展に貢献したい。



▲友人と2019大学祭終了後の打ち上げ

米国大学の不思議な「伝統」

基盤教育群 教授 山本 まゆみ

文化人類学を学びたい一心で、人類学を体系的に学べるアメリカへ大学時代から留学していました。

大学(カリフォルニア大学ロサンゼルス校:UCLA)は、サンタモニカ・ビーチまでバスで30分程度の場所に位置し、たまに授業の後、気分転換も兼ねビーチに直行し、寝そべりながら本を読むという、なんとも贅沢な学生時代を送りました。ビーチサンダル、サングラスは年中必携!学生は冬でも短パン姿で闊歩しているようなキャンパスでした。お気楽な雰囲気聞こえるかもしれませんが、学生生活は厳しいもので、当時、卒業率30%程度というプレッシャーの中、大学時代はひたすら勉強しました。言語のハンディもあり、角膜を傷めるほど目を酷使しましたが、勉強に追われていたのは米国の学生も同様で、24時間利用可能な図書館は試験前でなくとも毎日盛況でした。米国の総合大学の多くは大学街を形成しており、UCLAも同様で、多くが大学寮か大学近くに居住しており、夜半になり女子学生が帰宅する際は、学生街なら(宮城大学を例にするならアウトレット・モールあたり)、学生自治会が組織しているボランティアのエスコートサービスが家まで送ってくれました。

学生は、驚くほど勤勉で、行動力があり、文武両道でもありました。多くの学生は体力づくりのためジムを利用していましたが、実はストレス発散の為でもありました。私も例にもれず、毎日2時間ジムで汗を流していました。こんな「充実した」日常も、学期末になるとストレスの頂点に達し、ある「儀式」が行われていました。学期の最終授業日と学期末試験開始日までの数日間の勉強日の期間に、夜中の0時になると、毎晩一斉に大学寮やアパートの窓が開き、学生が外に向かって力の限り大きな叫び声を上げていました。ストレスを発散する「伝統儀式」です。近隣には一般の住人もいましたが、こんな迷惑な儀式でも、有難いことに大目に見てくれていました。0時1分には静寂が戻り、リフレッシュした学生は再び机に向かい、何事もなかったかのように勉強を再開します。儀式は、単なるストレス・コントロールだけではなく、みんなで一緒に「戦っている」感覚も生成し、共に試験勉強を乗り越えられた気がしました。寂しいことに、今はこの「伝統」もなくなっているようです。

授業の課題が山積みで、学生同士が教え合い助け合い、また週に1度の教授のオフィスアワーには多くの学生が足しげく通いながらなんとか生き抜けるような大学生活でしたが、苦労を共にした友人や努力を見つめてくれていた教授とは、今でも国境を越えて連絡が続いています。「若い時の苦労は買ってませよ」と言いますが、私の米国留学はまさにその一つかもしれません。教授たちの熱心な指導もあり、単に文化人類学を学びたい学生が、文化人類学を専門にするようになりました。来年度からは、ようやく宮城大学でも文化人類学の科目が設置され、教えられるようになります。私が米国で受けた「恩」を、次世代を担う学生へ、教育という形で返せることを楽しみにしています。



▲「人類学の万国博覧会」研究調査で訪れたパリ。背景には2019年に焼失したノートルダム寺院。

後援会からのお知らせ

令和4年度 後援会総会のご案内

令和4年度後援会総会を開催いたします。議題は、令和3年度事業報告・決算報告、令和4年度事業計画・予算案などです。会員の皆さまはご出席くださいますようお願いいたします。

- 日時: 令和4年4月16日(土) 13:00～14:00(予定)
- 場所: 宮城大学大和キャンパス 講堂

後援会役員の募集

後援会では学生・大学・会員のために後援会運営に携わってくださる方を募集しています。現1年生～3年生の父母・保証人の方で、ご興味のある方は後援会事務局までご連絡ください。

後援会事務局 ☎022(377)8381 myu_kouenkai@myu.ac.jp

後援会終身会員制度のご案内

後援会では父母・保証人の方々が、学生の卒業後も宮城大学を支援する終身会員制度を設けています。卒業生の父母・保証人の皆さまの希望によりご加入いただくものですが、これまで多くの方々に入会いただき、大学の精神的な支えとなっています。会員の方には年2回発行の会報、及び主催事業の案内等を20年間送付いたします。

コロナ禍においても対面授業を主とした教育活動を続け、学生の修学に寄り添い、そして自主自律の運営を目指している宮城大学に、後援会では更なる充実した支援で、物心両面から支えてまいりたいと考えております。

令和3年度ご卒業予定されている学生の父母・保証人の皆さまには、改めてご案内いたしますが、何卒、制度の趣旨をご理解いただき、多くの方にご賛同いただきますようお願いいたします。

「終身会員の集い」中止のお知らせ

令和3年度の終身会員の集いは中止いたしました。令和4年度は暖かい時期に開催できるよう準備を進めてまいります。

令和4年度主催事業「講演会」

令和4年度の講演会は、日時や講師が決定いたしましたら、改めてご案内いたします。

大学からのお知らせ

令和3年度 宮城大学卒業証書・学位記授与式について

令和3年度宮城大学卒業証書・学位記授与式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、式典を午前・午後の2回に分け、卒業生・修了生及び教職員のみで行います。

当日の式典の様子は、午前・午後2回ともインターネットで配信するほか、スマートフォンを用いたAR記念撮影コンテンツも用意する予定です。

詳細は、卒業生・修了生宛てに学内メールにてお知らせいたします。

なお、今後の状況によっては、式典の実施方法等を変更する場合があります。

- 開催日程
- 日時: 令和4年3月19日(土)
- 場所: 宮城大学大和キャンパス 講堂

午前/午後	対象
<午前の部>	事業構想学群(部)及び事業構想学研究所
<午後の部>	看護学群(部)・食産業学群(部)及び看護学研究科・食産業学研究科

スチューデントサービスセンター、事務局学務課学生支援グループ ☎022(377)8213

お問い合わせ先	大和キャンパス (看護・事業構想)	太白キャンパス (食産業)
教務関係[カリキュラム・シラバス等]	kyoumu@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
学生生活関係	gakusei@myu.ac.jp	f-kyoumu@myu.ac.jp
キャリア開発室[就職関係]	careerdev@myu.ac.jp	f-career@myu.ac.jp
後援会事務局	myu_kouenkai@myu.ac.jp	

お問い合わせの際は、ご子女の「お名前」「所属学群」「学籍番号」もあわせてお知らせください。

編集後記

「お話しに聞き入ってしまった」「これからあきらめることなく、心と素直に向き合いたい」有森裕子氏講演会に来場された方の感想です。スタッフもあきらめずにコロナ禍でも開催できたことをうれしく思います。有森さんの今後のご活躍をお祈りします。

